

令和3年度小中一貫教育推進計画書

中学校区名	呉市立東畑中学校区
代表者所属校 校長氏名	呉市立東畑中学校 藤原 敏宏

1 目指す児童生徒像

主体的に学び、論理的に思考できる児童生徒

2 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
	知識・技能	論理的思考力・ 判断力・表現力	主体性・積極性
後期	学習した内容や方法を、 現実の課題や新たに生じた 課題等の解決に駆使 することができる。	多面的・多角的に考察し 公正に判断するとともに、 論理の展開の仕方や表現の 仕方などを工夫して、効果 的に表現することができる。	目標を明確にし、課題解 決に向けて、多様なメン バーと協働し、見通しをも って調整しながらやり切り、 学びを自己の生き方につな げることができる。
中期		複数の事柄や資料などを 関連付け、整理したり再構 成したりして、適切に表現 することができる。	課題解決の過程におい て、対象に対して積極的に 働きかけながら、協働し たり工夫したりして解決し、 学びの価値を考えることが できる。
前期 (中学年)		複数の事柄や資料などに ついて、自分で視点を設け て比較、分類、関連付けて まとめて表現することがで きる。	課題解決のために、校内 や地域の人など対象に自ら 働きかけながら、ねばり強 く取り組み、その成果から 自分のよさや可能性に気付 くことができる。
前期 (低学年)		身の回りの複数の事柄や 資料について、気付いたこ とを基に、比べたり分け たり、例えたりして順序よく 説明することができる。	家族や友達、地域の人な ど身近な対象に進んでかか わり、意欲的に学習したり、 生活したりして、自分のよ さや可能性に気付くことが できる。
就学前		[知識及び技能の基礎] 豊かな体験を通じて、感 じたり、気付いたり、分か ったりできるようになった りする。	[思考力, 判断力, 表現力の基礎] 気付いたことやできる ようになったことを使い、 考えたり、試したり、工夫 したり、表現したりする。

3 研究主題と設定理由

(1) 研究主題

主体的に学び、論理的に思考できる児童生徒の育成

～習得・活用・探究の過程を位置付けた授業づくり、対話・協働により自己有用感を高め
る生活づくりを通して～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本中学校区は、令和２年度、「主体的に学び、論理的に思考できる児童生徒の育成」を研究テーマに、２つの部会（授業づくり部会・生活づくり部会）を中心に授業づくりと生活づくりに取り組んできた。

授業づくり部会では、総合的な学習の時間を中心にカリキュラムマップに基づいて、習得・活用・探究の過程を位置付けた単元を開発し、「考える授業」づくりを進めてきた。また、生活づくり部会では、児童生徒の実態調査の結果から、基本的な生活習慣の定着を図るとともに、仲間と協働して課題を解決していく過程を通して自己有用感の高揚を目指した取組を進めてきた。

これらの取組により、学力の向上が図られ、基本的な生活習慣の定着に効果がみられた。しかし、授業づくり部会においては、自分の考えを積極的に伝えたり、相手にわかりやすく工夫して伝えたりすることに課題がみられた。その課題解決のためには、論理的思考力・判断力・表現力を高めるための一層の指導の工夫と適切な評価が求められる。生活づくり部会においては、後期からの起床時刻・就寝時刻・メディア視聴に関する約束や中期・後期の自己有用感が低いことに課題が残った。三点固定への取組と自己内対話により生活改善を図り、協働してやりきる経験とその評価により自己有用感を高めていく必要がある。

そこで、引き続き、習得・活用・探究の過程を位置付けた授業づくりを行うとともに、対話・協働により自己有用感を高める生活づくりを行うことで、主体的に学び、論理的に思考する児童生徒を育成することができると考え、本主題を設定した。

4 研究内容

(1) 委員会・部会

ア 運営委員会・推進委員会

イ 部長・副部長会（授業づくり部会，生活づくり部会）

ウ 部会

○ 授業づくり部会

- ・ カリキュラムマップに示された「習得・活用・探究」の過程を位置付けた単元の開発と実践・検証を進める。
- ・ ９年間の系統性を意識した児童生徒の資質・能力の育成を目指し、適切な評価の在り方について研究する。

○ 生活づくり部会

- ・ 基本的な生活習慣を定着させるための取組を自己内対話により重点化して行う。
（メディア視聴に関する取組に重点をおく。）
- ・ 交流活動の目的を明確にし、児童生徒自らが主体的に他者に関わり自己有用感を高めていく活動を工夫する。
- ・ 自己有用感を高める手立て（生徒指導の三機能）を取り入れた授業づくりを行う。

(2) 小中合同研修会

3校において各1回行う。

○ 6月29日（火）：明立小学校

○ 10月1日（金）：小中合同授業研（朝倉教授） 原小学校

○ 2学期または3学期（今後日程を検討）：東畑中学校

(3) 東畑中学校区地域公開研究会（自主公開）

- 10月17日（日） 原小学校
- 10月22日（金） 明立小学校
- 11月1日（月） 東畑中学校

(4) 小中合同行事

- ア 小中合同クリーン活動 11月25日（木）
- イ オープンスクール（小学校第6学年対象） 1月31日（月）

5 推進体制

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業（中→小，小→中）

（中→小）

教科 学級活動

対象学年 第6学年

時数・時期等 原小学校： 7月・12月・3月 中学校教員

明立小学校： 7月・12月・3月 中学校教員

※ その他の教科等における乗り入れ授業も検討していく。

(小→中)

教 科 国語 (古典)
対象学年 第3学年 (第9学年)
時数・時期等 (今後調整)

(3) その他

- ア 実技指導 陸上競技部
対象学年 小学校陸上記録会参加児童 (第5, 6学年)
時数・時期等 原小学校 10月26日 (火)
明立小学校 10月28日 (木)
※小学校陸上記録会 10月30日 (土)
- イ 中学校教員による小学校教員を対象とした研修
時 期 8月下旬で調整
内 容 入試制度改革について研修予定

6 見込まれる成果及び検証方法

(1) 見込まれる成果

- 課題を発見し、習得した知識・技能を活用したり仲間と対話的な活動を行ったりして、解決する力を高めた児童生徒が増える。
- 人と関わり、協働してやりきる体験と評価により自己有用感が高まった児童生徒が増える。

(2) 検証方法

- ア 「課題発見・解決学習」に関する児童生徒質問紙 (12月)
- イ 標準学力調査における正答通過率 (1月)
- ウ 生活アンケート (はたっこLife好きカード) による調査【対象: 児童生徒】
(6, 11月実施)
- エ 自己有用感に関する質問紙調査【対象: 児童生徒】 (学校評価と連動)
- オ 交流活動後の児童生徒の振り返り

7 推進計画

月 日	内 容	
【1学期】		
〈4月〉		
8日(木)	運営委員会	本年度の方針及び計画立案 (東畑中 16:00)
13日(火)	推進委員会	諸計画の日程調整 (原小 16:00)
16日(金)	部長・副部長会	本年度の活動内容の検討 (明立小 16:00)
〈5月〉		
10日(月)	総会	本年度の方針及び活動計画について (原小 15:40)
〈6月〉		
16日(水)	あいさつ運動	はたっこLife・Smileスキル週間に伴うあいさつ運動 (明立小)
17日(木)	(いじめ撲滅週間に実施)	はたっこLife・Smileスキル週間に伴うあいさつ運動 (原小)
29日(火)	小中合同授業研究	明立小学校
〈7月〉		
9日(金)	中学校区通信発行	「はたっこ」発行 (担当: 東畑中)

<p>未定</p> <p>〈 8 月 〉</p> <p>2 日 (月)</p> <p>4 日 (水)</p> <p>未定</p>	<p>小学校へ乗り入れ</p> <p>部長・副部長会</p> <p>全体会</p> <p>2 部会</p> <p>推進委員会</p>	<p>中学校生活全般について紹介</p> <p>1 学期のまとめ, 2 学期の計画 (東畑中 14:00)</p> <p>サテライト研修を申し込んでいる。</p> <p>(講座番号834:カリキュラム「学習評価のポイント」講座)</p> <p>各部会・研究の進捗状況の確認 (明立小 14:00)</p> <p>各部会での今後の取組についての協議</p> <p>2 部会を受けて今後の日程調整</p> <p>高校入試制度改革について</p>
<p>【2 学期】</p> <p>〈 9 月 〉</p> <p>〈 10 月 〉</p> <p>1 日 (金)</p> <p>26 日 (火)</p> <p>28 日 (木)</p> <p>〈 11 月 〉</p> <p>11 日 (木)</p> <p>12 日 (金)</p> <p>25 日 (木)</p> <p>〈 12 月 〉</p> <p>3 日 (金)</p> <p>未定</p>	<p>小中合同授業研究</p> <p>陸上技術指導 (原小)</p> <p>陸上技術指導 (明立小)</p> <p>あいさつ運動 (いじめ撲滅週間に実施)</p> <p>クリーン活動</p> <p>中学校区通信発行</p> <p>小学校へ乗り入れ</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>※ 2 or 3 学期の東畑中担当の小中合同研究授業 → 東畑中で日程を調整する。 → 教科は社会科で決定。</p> </div> <p>原小学校 (朝倉教授の指導あり)</p> <p>中学校陸上部生徒・顧問による児童への実技指導</p> <p>中学校陸上部生徒・顧問による児童への実技指導</p> <p>はたっこLife・Smileスキル週間に伴うあいさつ運動 (原小)</p> <p>はたっこLife・Smileスキル週間に伴うあいさつ運動 (明立小)</p> <p>児童生徒が協働した地域の清掃</p> <p>「はたっこ」発行 (担当: 明立小)</p> <p>中学校と小学校の違い等について説明</p>
<p>【3 学期】</p> <p>〈 1 月 〉</p> <p>11 日 (火)</p> <p>31 日 (月)</p> <p>〈 2 月 〉</p> <p>18 日 (金)</p> <p>28 日 (月)</p> <p>〈 3 月 〉</p> <p>2 日 (水)</p> <p>未定</p> <p>15 日 (火)</p> <p>29 日 (火)</p>	<p>推進委員会</p> <p>オープンスクール</p> <p>部活動体験</p> <p>部長・副部長会</p> <p>全体会・2 部会</p> <p>中学校区通信発行</p> <p>小学校へ乗り入れ</p> <p>運営委員会</p> <p>小中連携</p>	<p>次年度の日程調整, 研究のまとめ (東畑中 16:00)</p> <p>次年度中学校入学予定児童及び保護者対象の学校説明会</p> <p>次年度中学校入学予定児童対象の部活動体験</p> <p>成果と課題の集約, 研究のまとめの修正, 次年度活動計画立案 (明立小 16:00)</p> <p>本年度の成果と課題の共有 (原小 15:30)</p> <p>「はたっこ」発行 (担当: 原小)</p> <p>中学校生活の準備や心構えについて説明</p> <p>次年度の方針・計画の協議 (東畑中 16:00)</p> <p>次年度中学校入学予定児童の情報交換 (東畑中 10:00)</p>

8 その他

- 呉市教育委員会の指導・助言を受け, 効果的な実践を行う。
- 呉市教育委員会以外の指導助言者を招聘し, 教職員が理論及び実践力を身に付ける。
- 10月1日(金)の合同授業研究では, 安田女子大学教育学部児童教育学科教授・朝倉淳先生の指導を受ける。

※ カリキュラムマップを添付する。

東畑中学校区 資質・能力 ルーブリック

育成を目指す 資質・能力		知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
		知識・技能	論理的思考力・ 判断力・表現力	主体性・積極性
I	就学前	[知識及び技能の基礎] 豊かな体験を通じて, 感じたり, 気付いたり, 分かっ たりできるようになったりする。	[思考力, 判断力, 表現力 の基礎] 気付いたことやできるよう になったことを使い, 考え たり, 試したり, 工夫した り, 表現したりする。	[学びに向かう力, 人間性 等] 心情, 意欲, 態度が育つ 中で, よりよい生活を営も うとする。
II (低学年)	前期	学習した内容や方法を, 現実の課題や新たに生起 した課題等の解決に駆使 することができる。	身の回りの複数の事柄や 資料について, 気付いたこ とを基に, 比べたり分け たり, 例えたりして順序よく説 明することができる。	家族や友達, 地域の人な ど身近な対象に進んでか かわり, 意欲的に学習した り, 生活したりして, 自分 のよさや可能性に気付くこ とができる。
III (中学年)			複数の事柄や資料など について, 自分で視点を設 けて比較, 分類, 関連付け てまとめて表現することが できる。	課題解決のために, 校内 や地域の人など対象に自 ら働きかけながら, ねばり 強く取り組み, その成果か ら自分のよさや可能性に 気付くことができる。
IV (高学年・ 中1)	複数の事柄や資料などを 関連付け, 整理したり再構 成したりして, 適切に表現 することができる。		課題解決の過程におい て, 対象に対して積極的に 働きかけながら, 協働した り工夫したりして解決し, 学びの価値を考えることが できる。	
V (中2・3)	多面的・多角的に考察し 公正に判断するとともに, 論理の展開の仕方や表現 の仕方などを工夫して, 効 果的に表現することができる。		目標を明確にし, 課題解 決に向けて, 多様なメン バーと協働し, 見通しを もって調整しながらやり切 り, 学びを自己の生き方に つなげることができる。	